

華東農村訪問調査報告(4)

—— 2010年2月・3月、江蘇省・上海市の農村 ——

弁 納 才 一

はじめに

2010年2月・3月に中国の大学との教育・研究交流を行うとともに¹⁾、農村において聞き取り調査を実施する機会を得た。すなわち、2月4日～15日、主に資料収集のために上海・南京を訪問し、また、それから約1ヶ月後の3月7日～21日、再び上海・南京を訪問するとともに、上海市嘉定区と江蘇省無錫市・太倉市の農村を訪問して聞き取り調査を実施した。

2008年3月以降、今回の中国訪問まで、華東地区の農村にはすでに3回訪問し、老人らに話を聞き、その内容を記述してきた²⁾。

今回の聞き取り調査では、これまでの聞き取り内容を再確認した部分も多かった。また、華北農村訪問調査は、山西大学中国社会史研究中心の協力と支援によって2009年12月に山西省中部の平遙県道備村においてやや本格的な聞き取り調査を実施したのに対して³⁾、華東農村訪問調査は依然として予備的な聞き取り調査にとどまっている。後述するように、華東農村では村そのものが消滅しつつあることから、農村聞き取り調査の緊急性は非常に高まっている。

中国では、2010年は、2月14日が春節(旧正月の元旦)で、その前日の2月13日が大晦日にあっていた。上海では、2010年5月から開催される上海万国博覧会(上海世界博覧会)を控えて、依然としてインフラの整備やビル建設が急ピッチで進められている。

2月の訪問は、ちょうど春節の時期にあっていたためであろうか、上海

の市街地はやや閑散としており、また、上海市嘉定区の農村部にも工場などで働いていた外来の労働者は全くおらず、当該農村全体が非常に閑散としていた。

本稿は、その際に、いくつかの農村を訪問して聞き取り調査を行った内容を記録したものである。

1. 上海市

(1) 嘉定区馬陸鎮石崗村鄧橋丁北

訪 問 日 時：2010年2月6日 11:00~13:00

訪 問 場 所：丁濤泉氏宅

聞き取り対象者：王金龍(1946年9月28日生まれ、64歳)、

丁濤泉(1936年11月5日生まれ)

聞 き 手：弁納才一

丁濤泉氏宅は村の老人たちが集まる溜まり場のようにになっている。数人の老人が続々と集まってきた。昼食(筆者も水餃子をご馳走になった)の後に、彼等は麻雀を始めた。今回、話を聞いた王金龍(写真1を参照)もそのような老人の1人である。

その他にも、筆者がこれまで訪問した際に丁濤泉氏宅に来ていた丁敏華・劉宝娣もやって来ていた。だが、劉宝娣(61歳?)は老齢のために少し体調がすぐれないと言っていたが、実際、以前の快活な様子と比べてかなり元気がないように見えた(折柄の大寒波襲来の影響もあったのかもしれない)。

写真1. 麻雀に興じる王金龍氏



王金龍の個人史

- ・ 2人兄弟で、兄がいる(その兄が存命か、そして、どこに住んでいるのかについては確認することができなかった)。
- ・ 1950年、土地改革で5畝の土地を分配された。
- ・ 1952年に父親が死去すると、農業は母親がやらざるをえなくなり、自分も少し農作業を手伝うようになった。
- ・ 8歳(1954年)、小学校に入学して6年間学んだ。
- ・ 14歳(1960年)、中学校に入学して3年間学んだ。
- ・ 1963年から鄧橋生産大隊に参加して農作業に本格的に従事するようになった。
- ・ 1974～93年、鄧橋生産大隊の隊長を務めた。生産小隊長との間にはそれぞれ考え方に違いがあったためにちょっとした矛盾・軋轢はあったが、ほぼ平穏だった。
- ・ 1989～93年、村書記を務めた。

丁濤泉の家族

- ・ 丁濤泉の妻(陳連珍, 1938年生まれ?)は、相変わらず口数は少ないものの、かなり警戒心はなくなってうちとけた感じがした。
- ・ 息子と娘の2人の子供がおり、3人ともに新疆地鉄局で働いている(「相關政策」(親の仕事が子供が引き継ぐ)に拠る)。
- ・ 娘の1人娘(すなわち孫娘)は長安大学広告系を卒業して上海で仕事をしている。
- ・ 当日、息子の1人息子(すなわち孫)が旧正月休みのために、祖父である丁濤泉の家にやって来た。上海で貨物便のパイロットの仕事を始めただけだということ。

農業の集団化

- ・ 1954年、5～6戸の農家で互助組を組織した。
- ・ 1955年に初級合作社、1957年に高級合作社、1958年に人民公社が成立した。
- ・ 鄧橋生産大隊は、鄧家・東単・西単・丁南・丁北・金東・金西・王家の

8つの生産小隊(自然村)から成り立っていた。

- ・人民公社は1984年まであったが、1985年には消滅した。ただし、丁濤泉氏は1986年に人民公社が郷鎮村に改められたとしている。

大躍進期

- ・1960年と1961年が食糧不足が最も厳しい時期だった。その当時は、米のおかゆだけしか食べられなかったが、餓死者はいなかった。また、食料を求めて外から来た者もいなかった。

農作物と農業

- ・人民公社時代には、水稻(大米=ジャポニカ米)・小麦・棉花・ほうれん草・青菜・大根・胡瓜・蕪などを植えていた。蔬菜は自留地で栽培し、棉花はそのまま政府に納めた。それ以前は、インディカ米も植えていたが、おいしくなかった。また、農業の集団化時期以前は土布も自家用として作っていた。

農村の工業化

- ・1990年代後半から当該農村の工業化が進展した。

近況

- ・当該村から一番近い地下鉄11号線の駅は嘉定新城站であり(写真2を参照。「站」は駅を意味する)、双単路をしばらく歩いていくと駅があると教えてもらった。それに従って、歩いて嘉定新城站に行き(当駅と当該村の間には便数は少ないが、路線バスが運行している)、終点の嘉定北站まで乗車したが、その駅と嘉定区の市街地とはかなり離れており、交

写真2. 嘉定新城站



通インフラは未整備である。

- ・地下鉄11号線の嘉定北站から上海火車站までは途中の乗り換え(曹楊站で地下鉄3号線ないし地下鉄4号線へ)時間を含めて1時間弱・15元を要した。
- ・2010年後半頃から全村をあげて嘉定新城站到近いところ(場所は未定)に転住し始めることになっており(新築のマンションが用意されているのだろうか)、全ての住居は取り壊される予定である(「出租房」もなくなることになるが、賃貸居住者はどうなるのだろうか)。丁北区の行政区画は嘉定新城区(嘉定新区)となるという。

(2) 嘉定区馬陸鎮石崗村澄塘橋

訪問日時：2010年2月13日午前

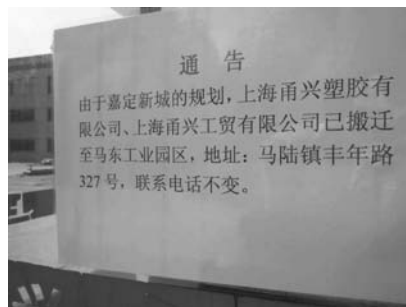
この日は、強い衝撃を受けることになった。これより約1週間前の2月6日に石崗村鄧橋を訪問した際に、もうすぐ全村をあげて引っ越しをして全村の家屋が取り壊されると聞いていたので、少し不安な気持ちを抱きながら、石崗村澄塘橋の龔文進氏宅を訪ねてみると、すでに村全体の家屋がほぼ取り壊され、その後方に多くの高層マンションが建設されていた(写真3を参照)。わずかに1軒だけ残っていた商店を兼ねた家の住民に聞いたところ、2010年1月頃に全村の引っ越しが行われて全ての家屋が取り壊されたという。

しかも、龔文進氏がかつて勤務していた工場(村の入り口近くにあった)も取り壊されてなくなっていた。また、他にもいくつかの工場が取り壊されつ

写真3. 石崗村澄塘橋の跡地



写真4. 工場の移転通知の張り紙



つあり、工場の移転を知らせる張り紙を出しているところもあった(写真4を参照)。村の家屋ばかりでなく、工場も含めて、再開発が始まるようである。

(3) 嘉定市街地

訪問日時：2010年2月13日昼

石崗村澄塘橋から歩いて王金龍氏宅(石崗村鄧橋丁南809号)を探したが、見つけることができず、11時頃、丁北の丁濤泉氏宅を訪問した。丁濤泉氏の話によると、王金龍氏は午後に麻雀をやるために丁濤泉氏宅にやって来ると言うので、それまでに上海で購入することができなかった嘉定区の新しい地図を購入するためと昼食をとるためにバスで嘉定(終点のバスターミナルである嘉定客運中心)へ向かった。

城中路が嘉定の繁華街・中心地であり、その中に広大なショッピングモールがあって、その中には新華書店もあった。その新華書店で嘉定の最新地図を見つけることはできなかったが、上海でも入手することができない嘉定の地方文献を購入することができた⁴⁾。かつて、嘉定区政府で嘉定の地方文献をほとんど入手することができなかったことから考えると⁵⁾、大きな成果があったということが言える。

(4) 嘉定区馬陸鎮石崗村鄧橋

訪問日時：2010年2月13日午後

訪問場所：丁濤泉氏宅

聞き取り対象者：丁濤泉及びその家族

聞き手：弁納才一

地下鉄11号線の嘉定北站から乗車して嘉定新城站へ移動し、石崗村鄧橋まで歩いていった。嘉定新城站の近くにバスターミナルが整備されつつあり、すでに「嘉定9路」のバスのみが運行していた。

丁濤泉氏宅に到着すると、王金龍氏はすでに麻雀をやっており、話を聞くことはできなかった。

春節の休暇ということで、丁濤泉氏宅には、子供夫婦や孫などの一族が一堂に会していたので(写真5を参照)、少し話を聞いた。丁濤泉氏一家にとっては、一家そろって村で迎える最後の春節ということになった。

写真5. (右から)長男、長男の妻、長男の息子、長女の娘、長女の夫、丁濤泉、長女、近所の子供、妻



2. 江蘇省

(1) 無錫

今回も、湯可可氏(無錫市政治協商委員会研究室主任)の事前準備と案内によって、榮巷街道小丁巷の榮紀仁氏に話を聞こうと考えていたが、湯可可氏による事前の調査によって榮巷街道小丁巷の住民は全員引っ越しすることになり、現在、榮紀仁氏(写真6を参照)も仮の居住地にいたことがわかった。

そこで、とりあえず、榮巷街道小丁巷を訪問したが、すでに全ての農

写真6. 榮紀仁氏(左)と湯可可氏(右)



家は取り壊されていた(写真7を参照)。2009年12月に引っ越しをしたという。約1ヶ月前の2月に訪問した上海市嘉定区石崗村と同じような状況になっていた。

なお、解放後の合作化以降の状況について聞き取った内容は、湯可可氏によって整理されることになっている。

写真7. 旧自宅跡地に立つ栄紀仁氏



訪 問 日 時：2010年3月15日 9:30~12:30

訪 問 場 所：無錫市浜湖区榮巷街道小丁巷，栄紀仁氏宅(仮住まい)

聞き取り対象者：栄紀仁

聞 き 手：湯可可・弁納才一

通 訳：周如軍

栄紀仁の個人史

- ・父は栄湧泉で、母は栄李氏である。
- ・7歳(1942年)、養正小学校(途中で溪北小学校に名称変更)に入学し、1949年に卒業した。
- ・1949年、立新会計学校(中学校)に入学し、1952年まで学んだ。
- ・1952年、帰郷して互助組に参加した。
- ・1954~58年の5年間、榮巷中心小学校・張巷小学校・徐巷小学校で教師をやり、1958年は徐巷小学校の校長だった。
- ・1958年、生産大隊にもどり、「管青年的工作」(主に「宣伝」を担当した)に従事した。

解放前の状況

- ・小作料は稲(粃)で支払ったが、1畝当たり225斤(米150斤に相当)だった。
- ・小作料は個々人がお土産も持って地主のところへ払いに行った。不作の年には小作料の支払いを免除してもらった。開明地主だった。

互助組

- ・1952年、小丁巷互助組に参加した。

なお、人民公社下の社隊企業も含めて農村工業化の動向について聞き取りを行った内容は、湯可可氏が後に整理する予定である。また、聞き取りを終えた後、丁建婭氏(栄紀仁氏の義理の娘。無錫市栄巷老年康復院院長)が宴席を設けた。

(2) 太倉

上海南駅のバスターミナルから長距離直通バスに乗車し、終点の太倉のバスターミナルへ到着すると、そのバスターミナルが太倉市北部に新たに建設されたことがわかった。そこから沙溪鎮行きのバスに乗車して直塘まで行ったが、車中で地図を見ていると、臨席の乗客がどこまで行くのかと聞いてきたので、直塘で下車して泰西村まで行くと答えると、その乗客も直塘で下車して泰西村の隣の虹橋村に帰郷するということであつた。さらに、何をしに行くのか、誰を訪ねて行くのか、どんな仕事をしているのかなどと色々聞かれた。

前回の訪問と同じように、まず泰西村書記の家を訪問し、副書記の奚衛明氏に連絡して協力してもらうことにしたが、奚衛明氏は書記に昇進しており、多忙を極めているのであろうか、新たに副書記に就任した張麗芳(女性、40歳代)氏を紹介し、施金生氏宅に派遣してきた。張麗芳氏は、1983年に村民委員会幹部、翌1984年に婦女連主任兼共青团書記、2006年に婦女連主任兼村民委員会副主任、2009年8月に村副書記となった。なお、前村書記の施雪濤氏に関することはあえて聞かなかった。

以上のような事情から、今回は張麗芳氏が方言を共通語に通訳し、劉晴暄氏がそれを日本語に通訳することになった。

訪 問 日 時：2010年3月19日

訪 問 場 所：太倉市沙浜鎮泰西村施金生氏自宅

聞き取り対象者：施金生(農曆4月14日生まれ、へび年)

聞 き 手：弁納才一

通 訳：劉晴暄

村長

- ・1949～55年、泰西村には4人の村長がいたが、1955年以降、村長は選出されていない。
- ・奚根福(姚東村村長)、曹鈺生(姚西村村長)、李阿衛(郁東村村長)、張任福(郁西村村長)の4人のうち、張任福のみが存命だが、すでに痴呆がひどくなっており、話を聞くことは不可能である。

村書記

- ・1956年、高雪榮が初代村書記に任命された時に、施金生は高級合作社社長兼村副書記に任命された。
- ・1959年、高雪榮が問題を起こしたため、急遽、王滄泉が1960年まで代理書記を務めた。
- ・第2代書記は曹菊生(1960～64年)で、第3代書記が施金生で、直塘鎮建築公司書記に任命された1973年まで務めた。

互助組

- ・1953年、仲の良かった約10戸の農家で互助組を結成し、施金生が組長を務めた。互助組に参加したのは施阿小・施阿虎・朱海林・李海泉・李阿二・李金虎などだが、皆すでに亡くなっている。
- ・互助組では、「換工」や農具の相互貸借を行ったが、耕牛の使用は以前と同じように有料だった。

初級農業生産合作社

- ・1955年初め、約30戸の農家で洞星第4初級農業生産合作社が組織され、

社長を務め、仕事・農作業の割り振りなどを行った。

- ・水利の管理も初級社単位で行った。当時は、「牛車盤」で河川から用水路に水を汲み上げていた。ちなみに、「水泥渠」(コンクリートの用水路)が作られたのは1983年からだったという。
- ・初級社の下には3つの組があったが、その組は互助組とは一致していなかった。互助組は自主参加だったので、参加しない農家もかなりいたからである。
- ・農作業の時間はほぼ8～11時及び13～17時だったが、農繁期には朝の4時頃から働いた。

高級合作社

- ・すでに1955年末には高級社が組織され、1956年に「一化三改造」(高級合作社化と農業改造・手工業改造・私営資本主義工商業社会主義改造)が提唱され、高級合作社が正式に成立した。

人民公社と「大躍進」

- ・1958年、人民公社が成立し、「大躍進」が提唱された。
- ・「鍊鋼鐵」(土法製鉄運動)では、家の中にあった古い鉄鍋や不要な鉄を供出したが、普段使っていた鍋は供出しなかった。鉄の生産量はあまり多くなかった。製鉄は主に直塘鎮などの鎮で行われていて、いわゆる農村部ではあまり熱心には行われなかった。
- ・1961年まで「大食堂」があった。無料で食事をした。この時期の食糧不足はそれほど深刻ではなかった。
- ・「水利建設」運動では、「逢用風」(風車のようなもので水を汲み上げたのだろうか?)が行われた。
- ・「深耕密植」運動について、「密植」が農業生産に悪影響を与えることを当時の農民もわかっていたのではないのかと聞いたが、毛沢東の名前を何度も出して実態を語りたがらなかった(おそらく、側に現村副書記がいたためであろう)。そして、「深井、広積糧」というスローガンがあったことを教えてくれた。

労働者に貸し出すようになった。そして、2010年、ついに村そのものが完全に消滅することになった。

現在、中国の農村では、農業が消え、農地が消え、農民が消え、そして、農村が消えつつある。近郊農村の都市化が進行している。

注

- 1) 拙稿(周如軍との共著)「中国華東地域訪問記録-2010年2月・3月」(『金沢大学経済論集』第31巻第1号, 2010年12月)を参照されたい。
- 2) 拙稿「華東農村訪問調査報告(1)-2008年3月, 江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第1号, 2008年12月)・同「華東農村訪問調査報告(2)-2008年9月, 江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第2号, 2009年3月)・同「華東農村訪問調査報告(3)-2009年3月, 江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第30巻第1号, 2009年12月)を参照。
- 3) 拙稿「華北農村訪問調査報告(1)-2007年12月, 山西省太原市・霍州市農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第1号, 2008年12月)・同「華北農村訪問調査報告(2)-2008年12月, 山西省太原市・霍州市・平遙県農村」(北陸史学会『北陸史学』第57号, 2010年7月)を参照されたい。
- 4) 嘉定区地方誌弁公室・嘉定区档案局編『練川古今談』第1輯(上海緒信実業有限公司, 2006年11月), 嘉定区地方誌弁公室・嘉定区档案局編『練川古今談』第2輯(上海緒信実業有限公司, 2007年11月), 嘉定区地方誌弁公室・嘉定区档案局編『練川古今談』第3輯(上海緒信実業有限公司, 2008年9月), 嘉定区地方誌弁公室編『練川古今談』第4輯(上海緒信実業有限公司, 2009年10月), 上海市嘉定区《嘉定県統誌》編纂委員会編『嘉定県統誌』(上海交通大学出版社, 1999年), 上海市嘉定区地方誌弁公室編『嘉定県簡誌』(方誌出版社, 2008年), 《馬陸戩浜合誌》編纂委員会編『馬陸戩浜合誌』(学林出版社, 2009年), 《安亭方泰合誌》編纂委員会編『安亭方泰合誌』(学林出版社, 2006年), 上海市嘉定区江橋鎮太平村党総支太平村村民委員会編『太平村誌』(上海文化出版社, 2009年), 嘉定区地方誌弁公室編『嘉定史話』(中華書局, 1998年)などである。
- 5) 拙稿「華東農村訪問調査報告(1)-2008年3月, 江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第1号, 2008年12月)を参照されたい。